

第2回 蕪崎市総合計画審議会

日時	R8.03.27 14:00~15:40	場所	蕪崎市役所大会議室
出席委員 (敬称略)	林靖人(会長)、高添富士雄、西田遥、杉本保、青山優介、清水好美、篠原充、名取知佳、内藤慶子(委任状)、河西久美(委任状)		
欠席委員 (敬称略)	根岸利文(副会長)、千葉健司、内藤将、岩下和彦、金丸光太郎、山本健一、保坂沙央里、向山建生、保坂耕、内藤香織		
事務局 (敬称略)	財務政策課:根津、佐藤、山下 ランドブレイン:田中、生山、川又(記)		

議題

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 議題

- (1) 蕪崎市デジタル田園都市構想総合戦略 令和8年3月改訂版について
- (2) 蕪崎市第8次総合計画の策定方針(案)について
- (3) 蕪崎市第8次総合計画の策定スケジュール(案)について

(4) その他

4. その他

5. 閉会

内容

1. 開会

2. 林会長挨拶

- 本日の主な議題はアンケート、ワークショップの結果の報告と計画の骨組みの共有
- 委員からは多角的な意見を求めたい
- 時代の移り変わりが早く、計画通りに事業を進めていくことも難しいが、それでも考え方の寄りどころとなるためには計画は必要

3. 議事

(1) 蕪崎市デジタル田園都市構想総合戦略 令和8年度3月改訂版について

【委員】最後のページの電話番号が抜けているように見えるため、確認してほしい。

【事務局】 修正する。

【会長】 印刷物として配布する予定はあるか。

【事務局】 印刷は予定しておらず、ホームページ掲載等のデジタル版を想定している。

【委員】 前回は意見したが、デジタル田園都市構想では持続可能な社会やウェルビーイングが重視されているはずであり、その視点がどこにも見当たらない点が気になる。

【事務局】 本資料は既存の総合戦略の部分改定であり、人口増加対策に特化した計画である。今回審議いただく主たる対象は、別に存在する総合計画の改定である。今回は総合戦略と総合計画を統合して第 8 次総合計画を策定する予定であり、その中にはウェルビーイングや持続可能性の視点を盛り込んでいきたい。本件は現状確認としてご理解いただきたい。

(2) 韮崎市第 8 次総合計画策定に係る各種基礎調査結果及びアンケート、ワークショップ等の開催結果について

(3) 基本構想の骨子(基本構想の検討について)

((2)(3)、今後のスケジュールについて事務局からまとめて説明)

【委員】 本日欠席委員が多いようであるが、会議開催の定数を満たしているか。

【事務局】 本審議会の成立要件は、委員の半数以上の出席がなければ開催することができない決まりとなっている。本日の出席者は、20 人中 8 人であり、出席者としては、満たしていない。しかし、欠席されている委員のうち、2 人から事務局へ一任する旨の委任状をいただいているおり、また、その欠席委員からも意見をいただいていることから、その 2 人を出席者に加えると 10 人となり、本日の審議会は成立していると捉えている。

【会長】 今後は早めの資料送付やデジタル送付も含め、できるだけ意見を出しやすい仕組みを考えてほしい。

【委員】 基本構想作成のためのキーワード抽出について、社会潮流や市民意見を踏まえることは重要であるが、現行計画において何ができ、何ができなかったのか、その反省を次にどう生かすのかという視点が弱いように感じられる。資料には職員意見が記載されているが、できたことの評価が中心であり、何が不十分であったのかが見えにくい。市としてどこを課題として認識し、それをどう次につなげるのかが明確であれば、より説得力のある構成になると考える。市民意見と市の課題認識が重なる部分こそ、重点的に取り込むべきキーワードであると思う。また、市民意見には現れていなくとも、市として必要であると判断する事項があってもよいと考える。

【事務局】 施策評価編の別添資料には、各課の取組・成果・課題・展望を整理している。今回の説明では省略したが、今後は課題から次の計画につながる流れが分かるよう工夫したい。

【委員】 金融機関でも KPI を使って評価することはあるが、達成率だけでなくその KPI がそもそも目的達成に結びついていないこともある。そうした評価を含めて、市側が重点的に取り組みたい課題を積極的に打ち出すことも重要ではないか。

【会長】 近年はロジックモデル等で因果関係を整理する考え方もある。仮説を明確にすれば検証もしやすくなるため、そうした視点は有効だと考える。

【委員】 健康増進・スポーツの前に「医療」を入れる構成は、非常に良いと感じた。また、最後の「共生社会・人口減少社会の行政運営」にある「共生」という言葉も重要だと思うが、蕪崎市としてどのような意味合いで用いているのかが気になった。多様な生き方や多様性を認め合うことにとどまらず、障害のある方が地域で暮らすことも含まれるのか、そのあたりがどの程度政策に反映されるのかが気になるところである。たとえば、発達障害児の相談機関を増やしてほしい、障害児を持つ家庭への支援が必要であるといった声もあるため、そのあたりがもう少し分かりやすく見える形になっていてもよいのではないかと感じた。

【事務局】 ここでいう共生は、LGBTQ の方、障害のある方などを含め、すべての人がいきいきと暮らせる社会を想定している。他分野とも重なるが、そこは一定程度重複を許容しながら整理したい。

【委員】 SNS による情報発信について、今はInstagramだけでなく、ポッドキャストのように、自分の都合のよい時間に情報を得られる手段も広がっていると感じる。比較的利用者也伸びていると聞いており、そうした手法も候補として検討してはどうか。

【事務局】 情報発信手法は今後の基本計画でも考慮したい。ポッドキャストなども含め、担当部署へ共有し検討したい。

【委員】 中高生懇話会のシャッターアートやイベント参加の話はよいと思うが、すずらん祭りは北杜市のお祭りではないか。蕪崎市の中高生を対象にした内容なのかどうかを確認したい。中高生懇話会の参加者が市内の学校の生徒だけなのかも気になる。

【事務局】 中高生懇話会は、市外から市内の学校に通っている学生や、市内在住で市外の学校に通っている学生も参加した。すずらん祭りは北杜市の事例として出たものであり、蕪崎市にも同じように中高生が活躍できる場をつくれるのではないかという趣旨である。

【委員】 市役所の課名は比較的良好く変わる印象があるが、誰がどう決めているのか。計画の重点分野に応じて課名をわかりやすく設定できれば、市民にも力を入れる方向性が伝わりやすいのではないかと。

【事務局】 組織改正は人事担当を中心に、副市長・市長等との協議の中で決めている。各部署が合議制で決めているわけではない。

【委員】 8年間の方向性を決める中で、課の名前は分かりやすいPRの手段にもなると思う。構想と連動するような課名にすることで、市民から見ても、市が何に力を入れているかが分かりやすくなるのではないかと。PRの一環として、そうした見せ方も検討してよいのではないかと。

【会長】 課名を通じて市の重点施策を分かりやすく伝えるという発想は重要であり、広報の一環としても意味がある。名称が領域名ではなく、「何をするか」が伝わる形になると、なお分かりやすいかもしれない。

【委員】 例えばコンパクトシティを掲げるのであれば、「コンパクトシティ化を進める課」のように、8年かけて何を進めるかが見える方が分かりやすいと思う。

- 【会長】 コンパクトシティを進めるには、かなり踏み込んだ仕組みやスピード感が必要だと思う。空き家対策なども含め、どこまで条例や制度で動かせるかも含めて、相当ダイナミックに考えないと進まないだろうし、今後ますます重要になると思う。
- 【委員】 不動産業の立場から見ると、アパートがない、土地が高いというのは事実である。需要は駅周辺の限られた範囲に集中しており、東京エレクトロン関連で住宅需要は高いが、建築費も上がっているため供給側も厳しい。住宅供給だけでなく、子育てや買い物環境などを含め、葦崎を選んでもらう理由づくりが必要であり、その視点を計画に具体的に反映できるとよい。
- 【会長】 住宅需給の実態や、何が人口移動を左右しているのかがよく分かる話であった。
- 【事務局】 本日委任状をいただいている委員から、観光を強化するなら桃狩り、ぶどう狩り、いちご狩りなどの体験型観光について具体的に記載した方がよいとの意見があった。
- 【会長】 横断的視点について、現時点でどの程度具体的に考えているのか確認したい。人口減少対策のように分野横断で取り組むテーマを、より明確に示した方がよいのではないかと。
- 【事務局】 現時点では例示段階だが、横断的視点として、チーム葦崎による協働、市民それぞれのウェルネス、広域連携の3点を想定している。いずれも一分野に限らないため、横断的視点として位置づけたい。
- 【会長】 横断的視点としての方向は理解できた。一方で、総論として賛成しやすい表現でもあるため、今後はもう一段解像度を上げて、葦崎として何に力点を置くのかを示せるとよいと思う。人口減少は避けられない前提の中で、葦崎らしさをどう出すのか、ウェルネスの中でも何を特徴として打ち出すのか、そのあたりが今後の論点になると思う。
- 【委員】 調査結果を見て、自分が関わることが多くあると感じた。ライドシェア、高齢者支援、ニコリのカフェ、体験型観光など、自分でもできそうなアイデアはあるが、それを総合計画にどう落とし込んでよいのか分からず発言をためらった。
- 【会長】 むしろ、そうした具体のイメージが出てくることはとても大事。行政としては枠があるからこそ考えられるのであって、枠がなければ何も生まれない。計画に書いてあることで行政も動きやすくなるため、具体的に考えられる余地があるということ自体が、この計画の意味だと思う。
- 【委員】 女性懇話会と市民ワークショップに参加した。葦崎に戻ってきている女性には、小さい頃から地域の人とのつながりや祭りの経験があるという共通点があった。子どもの頃から地域との接点を持つ環境を意図的につくるのが、将来の定住やUターンにつながるのではないかと。子育て・教育・歴史文化と、福祉が別の柱になっているが、こうしたことはつなげて考えてもよいのではないかと。
- 【会長】 世代を超えたつながりづくりも横断的視点として重要だと思う。

【委員】 中高生の定住意向が高校3年でやや回復する背景には、進路だけでなく、小中学校時代の地域でのよい体験があるのではないか。地域を知り誇りを持つ経験が、大人になって戻りたいと思う気持ちにつながる。地域探検の行事を大人になってから地域で復活させた事例もあり、子どもたちへの地域的なアプローチを関係機関の連携で進められるとよい。

【会長】 DX はまだ十分ではなく、今の 3 倍くらい進めてほしい。行政しか持ち得ないデータをしっかり蓄積・活用することが重要である。

また、人材育成については、子どもだけでなく、大人の人材育成も重要。大人が学び続ける仕組みを持つまちが強いと思う。葦崎には大学がないからこそ、大人が学べる場を強みにすることもできるのではないか。

行政と市民が対立構造になるのは望ましくない。実現する主体は市民の方に多くいるわけなので、行政は市民を頼り、市民は必要な枠を計画の中に作ってもらう。そのやり取りがこの場の役割だと思う。

人口規模についても、単純に増えればよいという話ではなく、葦崎として何を指すのか、そのためにどの規模を維持したいのかという戦略があってもよいと思う。そうした夢も持ちながら、現実は何ができるかを考えていただければと思う。

今日は結論を出す段階ではなく、いただいた意見を踏まえて次回さらに議論したい。

(4) その他

(特に意見なし)

4. 開会

以上